

ESD学習指導案 第6学年 総合的な学習の時間

奈良市立平城小学校 教諭 新宮 済

1. 単元名 私たちの寒河江市に文化財を愛する心を立ち上げよう
－「90年ぶりに再会した左脚を接合し結髪土偶を立ち上がらせたい！」プロジェクトから学ぶ－

2. 単元の目標

- ・結髪土偶を立ち上げるプロジェクトの達成は、地域の文化財を守ろうとする人々の思いが込められたものであり、たくさんの市民の参画により達成したことを理解する。 (知識・技能)
- ・結髪土偶を立ち上げるプロジェクトの達成が、地域の文化財を守ろうとする人々の思いが込められていることや、鉄道の開発で受けた社会恩恵を、開発の際に損傷した結髪土偶に返したいという市民の願いに支えられていることを考える。 (思考・判断・表現)
- ・結髪土偶を立ち上げるプロジェクトの達成に関心を持ち、結髪土偶に関わった人、プロジェクトを手がけた人、参画した人、の三者の営みに触れ、それぞれの思いにあこがれるとともに、自分たちも文化財を大切に守り続けていこうとする態度をもつ。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本学習は、ESDティーチャープログラム山形会場で共催した山形大学附属博物館の令和元年度のクラウドファンディング「90年ぶりに再会した左脚を接合し結髪土偶を立ち上がらせたい！」のプロジェクトを教材化した。教材化するにあたり、持続可能な社会づくり(ESD)の視点からこの活動に関わった人々の努力や願いに着目した。児童に理解しやすくするために、このクラウドファンディングを「新しい形の市民の寄付」として学習していく。児童は「市民の寄付で町の文化財を未来につなげた」というこのプロジェクトの達成までのストーリーに興味を持ち、プロジェクトを手掛けた人の思いを探究していく。これにより地域の文化財のために行動した市民の営みに共感し、あこがれる。最終的にこのプロジェクト達成のストーリーも地域の宝物として捉え、自分も地域の大人と同じように町の文化財保護に参画していく、という児童の変容を促すものである。この単元ではプロジェクトに関係する3つの営みを教材化した。

1つ目は、結髪土偶に関わった人の営みである。縄文時代晩期に生まれた結髪土偶は、約3000年のあいだ山形県寒河江市石田の地に眠っていた。大正10年に鉄道の施設工事の際、大量に出土した遺物の中から発見された。しかし、発掘の際に誤って上半身と両脚が分離した状態となり、不運にも同一のものだと気づかれないままに寒河江市の大地主に所有された。後に上半身はその家を離れ、居場所を変えて、最終的に附属博物館に辿りつくこととなった。一方左脚は、近年の所有者の遺族から寒河江市に寄贈されたことがきっかけで、博物館の所有する結髪土偶の上半身と同一ということを見つけたことにより、約90年ぶりに再開を果たした。鉄道の開発がなければ掘り起こされることもなく文化財の損傷も起きない。しかし、結髪土偶が発見された鉄道の開発は、寒河江市の物流や市民の交通手段として今日まで地域の発展に貢献してきた。この事実を常日頃感じている市民や地元企業が、「鉄道の開発から恩恵を受けた分を、結髪土偶に返すべきだ」と寄付に賛同し、結髪土偶は立ち上がるこができた。

2つ目は、プロジェクトを手がけた人の営みである。プロジェクトを主導した附属博物館は、これまで県内

でなされてこなかった「市民から寄付を集めて修復する」という市民参加型の文化財修復に挑戦した。必要な金額を集め脚を接合し土偶を立ち上げるだけではなく文化財の調査研究とともに、プロジェクトを達成する過程を通して市民の文化財を愛する心を立ち上げようとした。また寒河江市の職員大宮氏と連携し、市民と土偶の距離を近づける特別展を開催した。そして出土遺跡の近隣に立つ企業をまわり「結髪土偶の文化財としての価値」と「結髪土偶への恩返し」という思いを伝え、多くの協力者を集めた。

3つ目は、プロジェクトに共感し市民に寄付を募って回った地域の団体ソロプチミスト会長の鈴木氏(当時)の営みである。学生時代、発掘調査を経験したことがある鈴木氏は、寒河江市の特別展で結髪土偶に出会い、このプロジェクトを知った。その後、プロジェクトを進めていく附属博物館館長(当時)の熱意に心が動き、プロジェクト実現のために進んで市民に協力をお願いした。

これらの3つの営みに出会った児童は、「あの人たちみたいに私も結髪土偶のために行動できる人になりたい!」とプロジェクトに参画した大人へあこがれる。さらに「土偶が立ちあがった話は寒河江の宝物だね」と市民の行動に誇りを持つこととなる。このような経験をすることで地域から未来に伝えたい宝物が探せたり、文化財を後世に伝えるために活動している大人に協力できるようになる。

本プロジェクトを教材化し児童の行動化を促すことは、山形県寒河江市の将来都市像に掲げる「さくらんぼと歴史が育むスマイルシティ 寒河江」の実現に貢献することと考える。

(3) 指導観

まず、「結髪土偶への寄付」について知っていることを出し合う。おそらく、児童は結髪土偶が寄付により修復された事実をほとんど知らないだろう。市民により高額な寄付が集まり、土偶を接合した事実には驚くだろう。児童にとって寄付は学校生活で行われる数百円程度の募金のイメージである。しかし、このプロジェクトの寄付は「地域に古くからあるものに対して一口 5 千円以上の寄付する」というもので児童にとって当たり前ではない。この児童の思考のズレに着目することで、「どうして地域の大人たちは結髪土偶に寄付したのだろうか?」という学習問題を設定することができる。

次に「プロジェクトがどのようなものであったのか」をプロジェクトのポスターから調べていく。実際にレプリカを所蔵する寒河江市役所や実物がある附属博物館などへ見学に行ったり、寄付の様子を新聞やテレビ報道で確かめる。さらに、祖父母や近所の方々にプロジェクトについて取材し、寄付した大人の思いを聞き取る。寒河江市の人たちにとって結髪土偶は地域の歴史を語る大切な文化財なので、特別な思いを持って寄付していたことを知る。しかし、それでも児童にとって高額な寄付をする大人の思いは理解できないだろう。そこで「結髪土偶に関わった人」、「プロジェクトを手がけた人」、「参画した人」の三者の立場の営みに触れ、思いを知りにあこがれることで、文化財保護活動へ参画していこうとする児童の行動の変容を促す。

(4) この題材で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

【連携性】:地域の文化財は、市や専門機関だけが努力して守るのではなく、私たち市民も未来に語り継ぐべき遺産として、その活動に参画して行くことが大切であること。

【協働的問題解決力】:地域の文化財を守る活動に参画することや、大人を巻き込んで文化財を守る活動をする中で、寒河江市の掲げる将来都市像の実現を目指す。

・変容を促したい ESD の価値観

【世代間の公正】:文化財を自分たちの世代だけでなく未来へつないでいこうと考え行動する。

・SDGsとの関連

目標12 つかる責任 つかう責任 目標14 住みよいまちづくり

4. 評価の規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
結髪土偶を立ち上げるプロジェクトの達成は、地域の文化財を守ろうとする人々の思いが込められたものであり、たくさんの市民の参画により達成したことを聞き取り理解している。	結髪土偶を立ち上げるプロジェクトの達成について問いをもち、地域の文化財を守ろうとする人々の思いを調べ表現している。	結髪土偶に関わったそれぞれの思いにあこがれるとともに、自分たちも文化財を大切に守り続ける活動を考え実行し、地域社会に参画する。

5. 単元計画(20 時間)

学習内容	●留意点	【評価】
<p>○結髪土偶を立ち上げるプロジェクトについて知っていることを確認する。</p> <p>○学習問題を作る。 どうして地域の大人たちは結髪土偶に寄付をしたのだろう</p>	<p>●文化財に寄付する行動について興味を持たせるために寄付一口分の金額について考えさせ</p>	
<p>○プロジェクトがどのようなものであったのかを調べる。</p> <p>○結髪土偶の見学から寄付した理由を考える。</p> <p>○調べた成果を市の職員に発表し評価をもらう。</p> <p style="text-align: center;">結髪土偶に寄付した人から、寄付した思いを聞いてみよう</p> <p>○三者の立場の営みを知りその思いについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本授業に関わるゲストティーチャー</p> <p>結髪土偶に関わった人博物館・市職員・考古学者</p> <p>プロジェクトを手掛けた人…附属博物館・市職員</p> <p>参画した人…ソロプチミスト※他の参画者でも可</p> </div> <p>○新しい学習問題をつくる</p> <p style="text-align: center;">どうして鉄道の開発と結髪土偶への寄付はつながっているのだろうか</p> <p>○再び地域や家庭への聞き取りをし、問題について考えを深める。</p> <p>○調べたことを附属博物館元館長に発表し評価をもらう。</p>	<p>●ポスターや、家庭での聞き取りをもとにプロジェクトの概要をつかませる。 【思・判・表】</p> <p>●附属博物館などへ見学に行ったり、寄付の様子をテレビ報道などの映像で見たりさせる。</p> <p>●可能な限りゲストティーチャーとして授業に参加してもらいそれぞれの営みを紹介してもらう。</p> <p>●それぞれの立場からプロジェクトに関わる思いや努力を話してもらう。 【知識・技能】</p> <p>●次の学習問題につなげるためにそれぞれの立場から、「鉄道の開発と市民の寄付の思いが関係していること」に触れてもらう。</p> <p>●「鉄道の開発により市民への恩恵が生まれたからこそ、結髪土偶を直す責任があった」とことと「結髪土偶の立ち上げによって市民の文化財を愛する心の立ち上がり」に気づかせる。</p>	
<p style="text-align: center;">私たちの街に眠っている寒河江遺産をみつけよう</p> <p>○地域から未来に伝えたい宝物を探す。</p> <p>○既に文化財を後世に伝えるために活動している大人に協力し活動する。</p> <p>○自分たちの行動が山形県寒河江市の将来像として掲げている「さくらんぼと歴史が育む スマイルシティ 寒河江」につながっていることに気づく。</p>	<p>●一人ひとりの活動を授業で取り上げ意見交換をさせる。</p> <p>●実践したことを地域に紹介し、市の将来像の達成に貢献していることを地域の方より評価してもらう。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>

6. 単元構想図



※本指導案は、ESDティーチャープログラム山形会場で共催した山形大学附属博物館の依頼を受けて教材化した。山形大学附属博物館の令和元年度のクラウドファンディング「90年ぶりに再会した左脚を接合し結髪土偶を立ち上がらせたい!」報告書(2021)に掲載されている。